



パキスタンの活動へのご支援はこちら



最優秀農家賞を授賞したジャミールさん(中央)(左)、研修を受けたリーダー農家が、他の農家に知識や技術を伝授(右上)、ダドゥの畑で、青々と伸びる大麦(右下)

VOICE

最優秀農家賞を授賞しました ジャミールさん

私は7人子どもがいて、15人以上の家族で暮らしています。夫は製粉所の労働者です。こんな洪水が起きるとは、思ってもいませんでした。2ヶ月間はカラチの親類の元へ避難し、水が引いてから自分の家に戻りましたが、食べ物も何も、残っていませんでした。洪水の汚染水で家畜は病気になるしましたが、治療の費用

もなかったため、そのまま亡くなりました。生きるために他の人たちを頼るしかなく、いくつかの作物を育てましたが、家族に十分な量ではなく、必要な農業資材の価格も上がり、厳しい状況でした。その後、ジェンから種や資材を受け取り、小麦・大麦・からし菜の栽培に成功しました。状況は改善し、夫も私

ジェンは身に付けた知識を実践し、成果を上げている農家の方を表彰し、さらなる意欲向上を図る取り組みを行っています。表彰を受けたジャミールさんの言葉です。

も農作業をし、厳しい状況にある親戚に種をシェアしています。この賞は、地域で私が果たした役割、特に大麦の栽培と、コミュニティに種をシェアする取り組みに対していただきました。毎年、学んだことを実践に活かし、知識を他の人たちとシェアしています。私たちにとってとても有益な事業です。

こうしたことから、ジェンは良質な種や肥料、種を保存する袋などの資材を配布し、効率的な農法や種の適切な保存法に

脆弱でした。

この支援は第3期目に入りました。第1期は185世帯を対象とし、第2期では第1期の活動に参加した185世帯

削減を目指しています。

※本事業は株式会社センショーホールディングス様からのご支援とジェンへの寄付金により実施しています。

ジェンは今後も、未だ途上にある生活再建の営みに寄り添い、支える活動が続けていきます。

から収穫した種を受け取った370世帯が参加。第2期には、農家の約9割が、小麦・大麦・からし菜の収量が増えたと報告しました。第3期では第1期と2期に参加した555世帯から種を受け取った1,110世帯まで支援を拡大し、地域のロールモデルとなる人びとが活躍しています。

パキスタン ― 農業支援 ― 種と知識をシェアして、地域のロールモデルに

2022年にパキスタンで起きた大洪水で、特に甚大な被害を受け、人口の半数以上が被災したシンド州ダドゥ郡。この地域の人びとの主な食料と収入の源である農業は壊滅的な被害を受け、数多くの農家が食料危機に直面しました。また、農家の多くは洪水以前から、改良された種や現代的な農業技術を使っておらず、生計基盤が脆弱でした。

に関する研修を実施してきました。各農家が、収穫した種のうち、最初に受け取ったのと同じ量の種を、他の2世帯の農家に配布する「シードシェア(種の共有)」。

から収穫した種を受け取った370世帯が参加。第2期には、農家の約9割が、小麦・大麦・からし菜の収量が増えたと報告しました。第3期では第1期と2期に参加した555世帯から種を受け取った1,110世帯まで支援を拡大し、地域のロールモデルとなる人びとが活躍しています。

同僚と共に一歩を支える

熊本地震と千葉豪雨で、そしてネパールや世界各地での災害や紛争で亡くなられた方にお悔やみを、被災された方にお見舞いを申し上げます。

7月末から8月頭にかけて、パキスタンで働く同僚たちが来日してくれた。なるべく日本の文化に触れる機会をと願ったが、仕事ばかりで余り時間は取れなかった。それでも、現地で大麦のプロジェクトを実施しているため、週末も『大麦を使った美味しいパンで有名なベーカリーカフェ』に行き、しきりに写真を撮るなど、彼らも勉強熱心だ。敬虔なイスラム教徒だからお酒や豚はご法度だが、ノンアルコールの泡を上唇につけて冗談をいう姿は、飲み会そのもの。彼らが酔っていないことすら忘れてしまいそうだった。滞在中に熊本地震が発生した際も『あらゆる業務を後回しにして出勤しようか』と悩む姿に、日々同じ気持ちで働いている大切な同僚であることを改めて実感した。

同じ気持ちとは、被災された方々への想いだ。

厳しい状況にある人びとが、一刻も早く普通の暮らしを取り戻せる様にとという願い、その取り組みを支えたいという想いが、ジェンの仲間たちをつないでいる。世界中で災害が多発して、とうてい全ての人には我々の支援が届かなくても、一人でも多くの方の暮らしが一歩でも前へ動き出せる様、微力を尽くす日々は続く。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

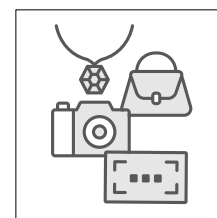
普通の暮らしを取り戻そうと努力する人びとを支える ジェンの活動をご支援ください

お家に眠る“お宝”が寄付に！
「JENのお宝エイド®」



お宝エイド®
詳細はこちら

使わなくなったアクセサリ、携帯電話・スマートフォン、金券など、お家に眠る“お宝”をお譲りいただけませんか？10%をめぐに上乗せされた金額(一部商品は除く)がジェンへの寄付となり、厳しい暮らしを送る方々の支援活動に活用させていただきます。本ニュースレターに同封の専用封筒をぜひご利用ください！

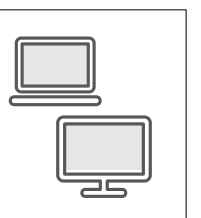


環境への負荷ゼロを目指す
エシカルパソコンで
ジェンの活動を支援しませんか？



ZERO PC
ジェンの
ページはこちら

サステナブルな社会の実現を目指し、廃棄されたパソコンを再利用、使えなくなった部品はすべてリサイクルするエシカルパソコン『ZERO PC』。パソコンに使われる希少な資源を取り合うのではなく循環させることで紛争解決への貢献を目指し、難民の方々にパソコン再生の技術を身に付けてもらうこのプロジェクトでは、ご購入金額の3%がジェンへの寄付になります。心臓部は新品です。ぜひご検討ください！



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。



完成した給水所。蛇口をひねると勢いよく水が飛び出した。



村を見下ろす山肌に、住民の方々と共に設置した貯水タンク。

アフガニスタン 水と衛生の支援 地震で被災した人びとに 安心・安全な水を届けました

2025年8月31日深夜にアフガニスタン東部ナンガルハル県とクナール県で発生したマグニチュード6.0を超える地震では、2,150人以上が亡くなり、家屋やインフラの破壊が人びとの暮らしに甚大な影響を与えました。クナール県ワタプール地区プルニ村は被害の大きかった地域のひとつで、多くの家屋が被害を受けましたが、生き延びた家畜や畑の管理のため、または避難キャンプが満員のため、120世帯、約

840人の方々が震災後も村の中心部で暮らしていました。地震により、生活に必要な水源は破壊されたり枯渇したりし、多くの家族は、生活用水だけでなく飲み水も、汚染された河川水に頼らざるを得ませんでした。不衛生な環境は、コレラ等の水を原因とする感染症の発生リスクを高め、命を脅かします。

ジェンは人びとが安全な飲料水を得られるよう給水施設を整備し、施設の保守管理のため

の研修を行うことで、持続可能な給水システムを構築しました。また、手洗い等の衛生的な習慣に関する啓発も実施し、人びとの健康状態の向上も目指しました。住民の方々がジェンと共に敷地の準備から、掘削、給水所の設置等に参加することで、自分たちのものだ、という主体性を育む取り組みです。

調理なしですぐに食べられる食品を配布(上)
配布場所では笑顔を見せる方の姿も(中)
食品パッケージ配布の様子(下)

3月初旬以降の空爆や戦闘の影響で、厳しい人道危機が続くレバノン。国連によりますと、3月2日以降の死者は少なくとも4,300人以上となり、1万2,000人以上のけが人が出ています。8月12日時点で35万人以上が避難を余儀なくされ、2万2,000人以上が232の集団避難所に身を寄せています。帰郷する人びともいますが、家屋や農地、インフラが破壊され、治安も安定しない中、多くの人びとが安全に自宅に帰れない状況です。レバノン全体で依然として水、医療、教育など、基礎的なサービスに対する支援が求められています。

ジェンは、現地の提携団体とともに、首都ベイルートと山岳レバノン県の9ヶ所の避難所で、先の見えない避難生活を強いられている300世帯の方々に、食品のパッケージを配布しました。調理場所・器具が限られた避難所でも調理なしですぐに食べることができ、栄養価が高く、現地の食文化に合った食品をお配りすることで、心身ともに消耗した方々の健康を支えるとともに、暮らしの再建に向けた活力を育んでいたことを目指しました。配布場所では、ほっと安堵した表情を浮かべる方の姿もありました。ジェンは今後も人びとの自立の一步を後押しし、紛争のない世界を目指します。

レバノン 中東危機緊急支援 避難所で、健康と暮らしの 再建を支えるための食品を配布

パキスタン 栄養改善・生計支援事業 災害に強くおいしい大麦のレシピで 栄養と生計を改善

パキスタンで起きた2022年の大洪水で、農地の85%が壊滅的な被害を受けたシンド州ダウド郡。ジェンはこの地の主要な生計手段である農業の復興を「シードシエア(種の共有)」を通じて支援してきました。シエアする種のひとつである大麦は、干ばつや洪水に強く、貧弱な土壌でも育つ在来作物ですが、住民の間には「家畜の餌」「味が悪い」といった文化的

な偏見もあります。この地域では、栄養の偏りから、肥満や糖尿病等にかかる大人が多い一方、成長発達が阻害された低身長や低体重の子どもが多く、バランスのとれた健康的な食習慣の普及が課題です。大麦は食物繊維やミネラルが豊富ですが、その価値が十分に理解されていません。一方で、住民の大半を占める小作農や土地を持たない農家は、収入の

ダウド郡の一般的な調理風景(上)
コミュニティでの事業説明会の一コマ(下)

多くを地主への支払いや農業資材購入に充てざるを得ず、教育や医療、食の改善への投資が難しく、慢性化した貧困と栄養不良は深刻な課題です。ジェンはこうした現状を踏まえ、家庭で料理を担う女性たちが、大麦を活用した調理法を学び、日常的に取り入れるための支援プロジェクトを立ち上げました。対象の10ヶ村で大麦の利用に関する実態調査を行い、料理教室や実習の拠点を整備します。また、栄養士とシエアが、一般的な家庭でも作ることができて、おいしい主食や総菜、菓子やパンなどのレシピを共同開発し、各村の試食会で住民に紹介します。味や栄養的価値について体感的に理解してもらうことで、人びとの食への興味と楽しみを広げ、栄養改善に繋げる狙いです。また、2024年から2025年にかけて、小麦の価格が下落したことから、生産作物の多角化によって生計を支援する狙いもあります。栄養や調理に関する研修、住民参加型のレシピブックの作成と配布も予定しています。

※本事業は味の素ファンデーション様からの助成と、シエアへの寄付金により実施しています。

Information

パキスタン事務所スタッフが来日しました

7月下旬から8月初旬にかけ、パキスタン事務所から所長のアズマツ・アリと、会計担当のサマル・ブットが来日しました。現地スタッフの来日は4年ぶりとなり、滞在中はご支援いただいている皆さまへの事業報告や、事業や会計、広報等多岐にわたる項目について、今後の展望を含め本部スタッフと集中的に議論しました。

東京本部事務所にて
(左:アズマツ、右:サマル)

アズマツから
皆さまへの
メッセージ

私たちが現地と共に活動する人びと、また現場で働く私たち一同を代表し、心より感謝を申し上げます。皆さまお一人おひとりのご支援は、皆さまの温かいお気持ちと、困難に直面する地域の人びとをつなぐ架け橋となり、人びとが暮らしを再建し、自分で明日を選ぶ力を与えてくださっています。

パキスタンのドキュメンタリー上映会を開催しました！

6月30日夜、千駄ヶ谷コミュニティセンターでパキスタンのドキュメンタリー上映会を開催しました。会場はほぼ満席となり、上映後のトークでは、本ドキュメンタリーの企画・撮影・監督・編集を務められたWORLD FESTIVAL Inc.代表取締役の近藤様にもご登壇いただき、事務局長や参加者の皆さまと活発な質疑応答が交わされました。ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました！開催後のアンケートでは、皆さまのご満足度は高く、事業についての関心を深めていただく機会となったのではと感じます。今後もジェンの活動や活動地について広く知っていただけるよう、努めてまいります。



上映後のトークの様子